

【99】隅田川は何という河川の下流か？

京都の鴨川、大阪の大川のように、東京を代表する河川というよりは歴史のある隅田川です。さて隅田川は何処から流れてくるのでしょうか。

隅田川という名は、江戸、東京だけの下流部での名前ですが、上流は何川なのか案外知られていません。

答えは長くなります。

古代や中世の時代には、関東平野南部の低地は、古い時代の利根川が荒川系の河川も合わせて今の東京湾へ流入し、下流部が隅田川となっていました。隅田川はこの（古）利根川の下流といえます。

時代が流れて江戸時代になると、低地開発のための治水事業により、（古）利根川は荒川から分離されて東方の千葉県の方に追いやられて、現在の利根川になりました。

荒川は秩父山地からの流れをかき集めて単独の水系となり、隅田川はその新しい荒川の最下流になるので、隅田川は荒川の下流ということになります。

明治から昭和初期の近代の治水事業では、新しく東京、埼玉の都県堺から東京の市街地を東へ迂回する巾 500m、長さ 22 km の大放水路（荒川放水路）を開削し、これが荒川の本川となりました。隅田川への分派点には水門が設けられ、隅田川は荒川の流量の一部を分担する脇役に転落したのです。

さて、近年の東京近郊の市街地の拡大により、隅田川へ流入する支川からの洪水流量が増加し、荒川からの洪水を受け入れる余地が失われてきたので、荒川からの洪水分派を止めることにしたのが現在の隅田川の治水計画です。

従って、荒川の洪水時には隅田川への分派点の水門は閉鎖されます。隅田川の洪水時の“本流”は、埼玉県の新河原から流下してくる「新河岸川」（しんがしがわ）ということになり、洪水流下の視点から形式的にいうと、隅田川は新河岸川の下流ということになってしまいました。

荒川の最下流という由緒ある血筋（川筋？）を失ったのは残念ですが、新しい時代の東京の街の再発展に、隅田川が主役を務める絶好のチャンスと考えることができます。